第２章

メキシコの養鶏インテグレーション

星野妙子

要約：本章のねらいは、メキシコの養鶏業に関する先行研究と統計資料の整理を行い、メキシコの養鶏インテグレーションの基本的な特徴を把握し、今後の研究の焦点と分析視角を定めることにある。この作業を通じて、メキシコの養鶏インテグレーションの特徴として、インテグレーションの調整方法としては所有に基づく調整が支配的であること、インテグレーターは市場構造に対応した多様な仕様の商品を提供できるという優位を有すること、３大インテグレーターの中では民族系企業が米系２社を押さえて圧倒的優位にたつこと、などの点が明らかになった。今後の研究の焦点としては、インテグレーターの生産拡大過程、所有に基づく調整が選択された要因、民族系企業の競争優位の源泉などの究明が指摘できる。
キーワード：インテグレーション、畜産、鶏、メキシコ

はじめに

本章のねらいは、メキシコの養鶏業に関する先行研究と統計資料の整理を行い、メキシコの養鶏インテグレーションの基本的な特徴を把握し、２年度目の研究に向けて分析の焦点と視角を定めることにある。

筆者がメキシコの養鶏インテグレーションに注目する理由は、メキシコ農牧畜業の産業再編の方向性を考えるうえで、重要な事例となりうると考えるためである。

メキシコ農牧畜業は 1980 年代中頃の貿易と投資の自由化以降、産業再編の波に洗われてきた。輸入と外国直接投資が拡大し、国内市場における競争が激化するなかで、企業的経営が急速に拡大している。そこにおいては最新の生産技術や経営管理技術を用いて、あたかも工業製品のように農牧畜産品を生産する、農牧畜業の工業化（杉山[1989:1]、Boehlje and Schrader [1998:4]）といえるような現象が生起している。同時に、農牧畜産品の生産・加工に関わる様々な主体（農牧畜産品生産者、投入財生産者、加工業者、流通業者など）のインテグレーションが進行している。それが最も顕著にみられるのが養鶏業である。そのような養鶏業の変化がどのような要因によってもたらされたのか。そこにメキシコ固有の特徴はあるのか。本章で行おうとするのは、先行研究と統計データを用いてこれらの点を探り、２年度目の研究に向けて分析の焦点と視角を定めることにある。養鶏インテグレーションの分析は、メキシコ農牧畜業の産業再編の意義と今後の展望を考えるうえで重要な材料となると考える。

ここで、本章で参考にした先行研究と統計データ・情報について述べておきたい。

メキシコの養鶏業に関する研究は、産業の現状を分析する報告書の類を別にすれば、それほど多くない。重要な研究としては、1980 年代初頭まで鶏卵の一大産地であったソノラ州の養鶏業の発展と衰退を分析した Hernández Moreno[1996]、[2001]、1980 年代から 90 年代にかけて行われた構造調整と貿易自由化の養鶏業への影響を分析した Real Cabello [1996]、Hernández Moreno and Andablo [2006]、米墨の養鶏業の生産格差を論じた Alonso Pesado and Loza Arizu [2004]などがあり、本章ではこれらを参考にした。

メキシコ養鶏業に関する統計データ・情報として重要なものに二つのものがある。第１にメキシコ農業省（正確には農業牧畜農村開発・漁業食糧省―Secretaría de Agricultura, Ganadería, Desarrollo Rural, Pesca y Alimentación、以下 SAGAR―、2000 年まで農業牧畜農村開発省―Secretaría de Agricultura, Ganadería, Desarrollo Rural、SAGAR）が不定期に刊行する「メキシコの鶏肉生産に関する現状と展望―*Situación actual y perspectiva de la producción de carne de pollo en México* ―」と「メキシコの鶏卵生産に関する現状と展望―*Situación actual y perspectiva de la producción de carne de huevo para plato en México*―」である。これまでに前者は 1990-1997 年、1999 年、2000 年、2003 年、2004 年を、後者は 1990-2000 年、2001-2002 年を分析対象時期としたものが刊行されている。生産、消費、貿易、価格、今後の展望などについての概説と主要な統計が掲載されており、インターネットで閲覧が可能である（www.sagarpa.gob.mx/ganaderia/estudio.htm）。第２に養鶏業者の全国組織である養鶏業者全国組合(Unión Nacional de Avicultores, UNA) が 1994 年から毎年発行する「養鶏業の経済指標要覧(Compendio de Indicadores Económicos)」がある。生産技術、インテグレーション、雇用など SAGARPA の統計にはない情報も収められている。本章ではマクロレベルの統計・情報はこの二つに依っている。ミクロレベルの情報については、企業のインターネット情報、養鶏業専門の雑誌記事などに依っている。例えばブロイラー生産の最大手 Industrias Bachoco(以下 Bachoco)については、メキシコ証券取引所とニューヨーク証券取引所に上場するため、インターネット上から有価証券報告書（Reporte anual）の入手が可能である。

以下においては、第１に「発展の歴史」、第２に「1980 年代後半以降の生産動向」、第３に「産業組織の特徴」、第４に「インテグレーションの進展状況」の順序で叙述し、まとめとして、本章の叙述を整理する形で今後の研究

の焦点と分析視角を述べたい。

なお本章では養鶏業のうち、と畜解体処理部門への投資の必要からインテグレーションが進展しやすいと考えられるブロイラーを主に取り上げ、卵鶏については必要に応じ述べるにとどめる。

１．発展の歴史

メキシコでは七面鳥の飼育が植民地時代以前から行われていた。植民地時代には征服者が持ち込んだ鳥が普及し、自給用に飼育されていた。これが今日の裏庭養鶏の起源といわれている(SAGARPA [1998: 6])。

近代的養鶏がはじめて導入されたのは、メキシコ政府により養鶏試験場がメキシコ州に設立された 1924 年のことである。1930 年代、40 年代には民間の近代的養鶏場がいくつか設立されている。

メキシコ養鶏業の発展はニューカッスル病が大流行したことから、1950 年代前半に中断した。国内生産の不足によりブロイラー、鶏卵の輸入が増加した。自給率の低下を憂慮したメキシコ政府は 1954 年に養鶏復興全国キャンペーン（La Campaña Nacional de Recuperación Avícola）と名付けて信用供与、技術指導を主な内容とする大々的な養鶏育成策を開始する。同時に、飼料、医薬品、種鶏を生産する Purina や Anderson Clayton などの米系多国籍企業の参入が活発化し、これらの企業が融資、安価な投入財の供与、技術支援、生産物の買い取りによって農家の養鶏業への参入を促したことから、ブロイラー、鶏卵の生産量は急増した。

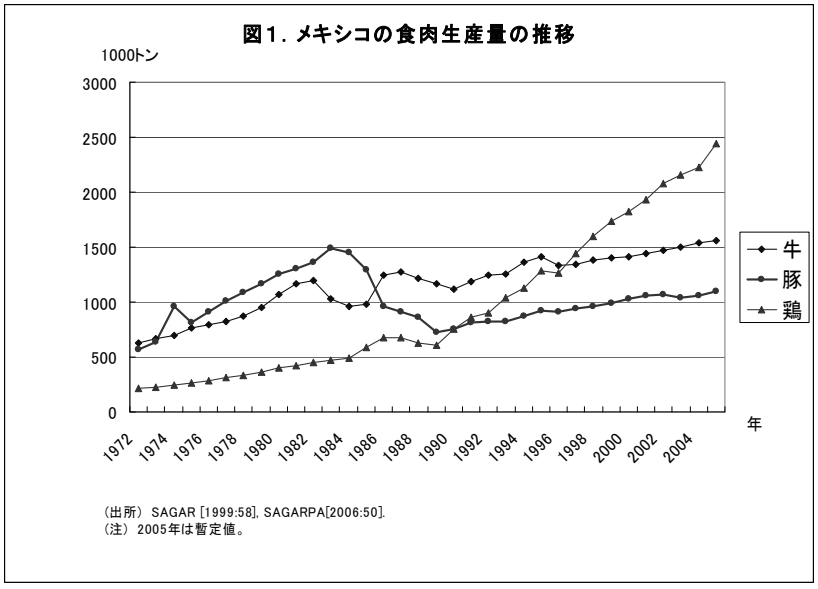
1960 年代後半には市場が飽和状態となり、養鶏業は生産調整期を迎える。1970 年代に入りインフレが高騰すると、高コスト生産者の淘汰が進んだ。同じ時期に小麦の国際価格が高騰し輸入額が上昇したことから、政府は小麦の飼料利用を禁止した。代替措置として政府は補助金支出により、飼料用ソル

ガムを穀物流通公社 CONASUPO を通じ安価に供給する政策をとった。補助金は生産者と役人との交渉で決定されたことから、交渉力の大小により補助を享受できる地域と、享受できない地域とが存在した。Hernández Moreno [2001]によれば、交渉力のあるソノラ州の生産者は CONASUPO を介した政府の補助を享受した。そのため 1980 年代半ばまで、ソノラ州はメキシコの主要養鶏産地として発展した。しかし 1987 年にソルガムへの補助金支出が廃止されことから、地域間の比較優位が変化し、産業構造の転換が開始される。

２．1980 年代後半以降の生産動向

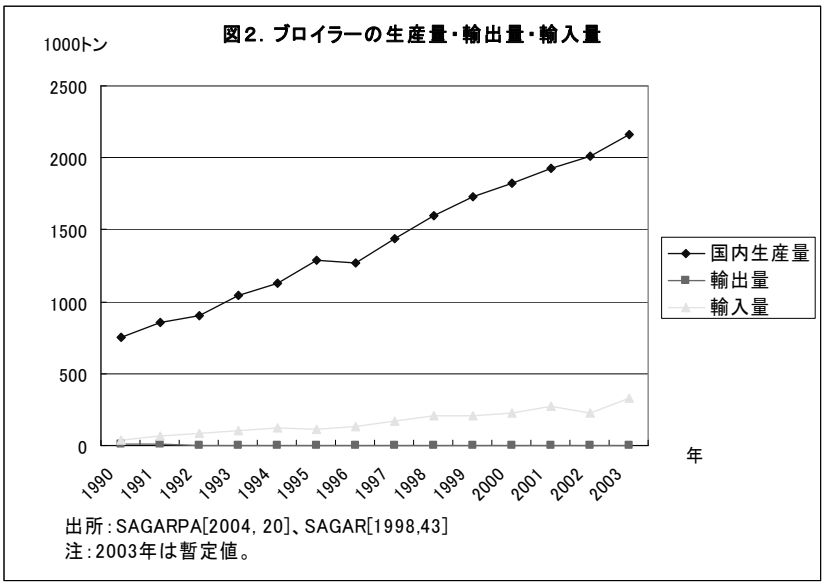
(1) 食肉生産量の推移

最初に、食肉生産におけるブロイラーの位置を確認したい。図 1 は 1972 年から 2005 年までのメキシコの食肉（牛、豚、鶏-ブロイラー-）生産量の推移を示したものである。この図から 1980 年代中頃に一時期停滞したものの、この間、ブロイラーの生産量は伸び続けていることが明らかになる。



ブロイラーとは対照的に豚肉は、1980 年代中頃から 1990 年頃にかけて生産量が激減し、未だに最盛期の水準に戻っていない。豚肉、ブロイラーともに生産コストの過半を飼料費が占め、1987 年のソルガムに対する補助金廃止の打撃を受けたことは共通している。それにもかかわらず両者が対照的な動きを示している要因としては、次のようなものを指摘できる。第 1 に 1982 年の対外累積債務問題の発生以降、メキシコは長期の経済不況を経験し、そのために実質所得が減少した消費者が豚肉から価格のより安いブロイラーへと食肉供給源を変化させたことである。第 2 に、消費者の健康志向が高まりコレステロールやカロリーが豚肉より低いブロイラーが好まれるようになったことである。第 3 に養豚業と比較して養鶏業においては 1980 年代後半以降、より大がかりに構造転換が進み生産効率の改善が進んだことがある（SAGARPA [1998:8], Hernández Moreno and Andablo [2006: 311]）。市場の拡大という需要側の要因と、生産効率の改善という供給側の要因が相まってブロイラーの生産量は急増したといえる。

(2) ブロイラーの生産・輸出・輸入



豚肉の生産量が大きく落ち込み、底をうった後も回復が遅々として進まない要因のひとつに貿易自由化による米国からの豚肉輸入の増加がある（星野[2007:112]）。それではブロイラーはどうなのか。

鶏の輸入は 1988 年まで、商工省の事前輸入許可の対象となっており、輸入量は少量にとどまっていた。しかし同年インフレ対策のために輸入制限と関税が撤廃されたことで、輸入は急増した。ただし国内養鶏業保護のために輸入自由化は6か月で中止された。鶏の輸入の自由化が再度進むのは、北米自由貿易協定(North American Free Trade Agreement, NAFTA)が施行されて以降である。交渉によって 1994 年の無税の輸入枠が鶏枝肉 1 万 3000 トン、部分肉 2 万 5000 トン、挽肉 2 万 7000 トンと定められ、輸入枠は毎年 3%ずつ 10 年間かけて拡大されることとなった。一方、ブロイラーの関税は 1994 年 260%とし、10 年間をかけて最初の 6 年間は毎年 24%ずつ削減、後の 4 年間で残りを毎年同じ率でゼロまで引き下げるとされた。以上のような経過措置を経てブロイラーの輸入は完全自由化される予定であったが、メキシコ政府は 2003 年 1 月にセーフガードを発動し、もも肉と胸肉に限定して期限付きで当初の税率 98.8%の関税を設定した。この関税は同年 7 月以降年々引き

表1. ブロイラーの一人当たり年間消費量と自給率

	一人当たり消費量(kg/年)	自給率(%)
1990	9.7	94.8
1991	11	93.1
1992	11.5	91.1
1993	13.1	90.7
1994	13.8	90.2
1995	15.2	91.8
1996	14.9	90.6
1997	16.9	89.4
1998	18.6	88.7
1999	19.7	89.5
2000	20.6	88.8
2001	21.6	87.6
2002	22.3	89.8
2003	23.9	86.7

出所：SAGAR[1998:43] SAGARPA[2004:20]
注：2003年は暫定値

下げられ、2008 年にゼロとなるとされた(Industrias Bachoco[2006:10])。豚肉の場合、同じく交渉において決められた 10 年間の経過措置の初年度の関税率が 20%であったこと、セーフガードは短期的にしか発動されなかったことを考えると、豚肉と比較してブロイラーは自由化の経過措置期間以降も、保護の度合いが強かった。

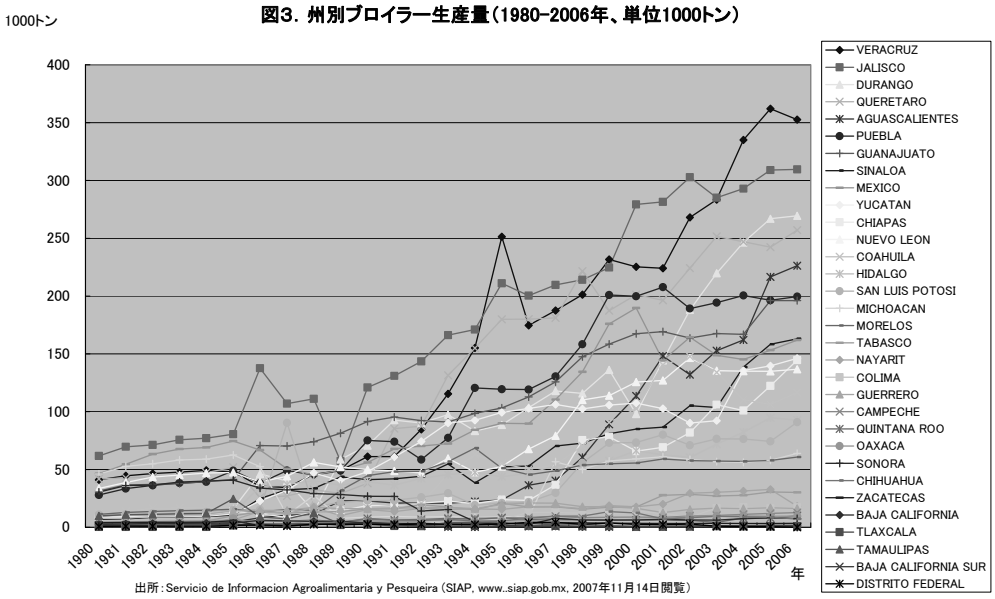
図２においてブロイラー輸入量の推移を見ると、輸入制限が存在する 2003 年まで、輸入は徐々には増えているが、国内生産量に比して少量に留まっている。ブロイラーの国内自給率は 1990 年の 94.8%から 2003 年の 86.7%まで下がったが、同じ年に豚肉の場合は 80.8%から 72.6%（SAGAR[1999:67] SAGARPA[2006:55]）に下がったことを考えると、ブロイラーへの貿易自由化の影響は 2003 年までは軽微であったといえよう。それを可能にした要因としては、NAFTA の経過措置期間以降も依然として関税障壁で保護されていることに加えて、ブロイラーの消費が急速に拡大したこと、生産者が事業再編により生産効率を上げ輸入品との競争力を高めたことなどが考えられる。

(3) 州別生産量の推移

Hernández Moreno の研究によれば、養鶏業に対する政府の補助金支給と穀物流通への介入が撤廃されて以降、地域間の比較優位が変化し、産地の転換が起きた。そのことを　、州別の生産量の推移をブロイラー（図３）と鶏卵（図４）についてみることで、確認したい。まず 1985 年までの期間についてみれば、ブロイラー、鶏卵ともに主要生産州の順位にほとんど変化がなかった。その状況が 1986 年以降、大きく変化する。鶏卵についてみれば、ハリスコ州とプエブラ州が新しい産地として躍り出てソノラ州の地位を奪った。Hernández Moreno [2001]は主にこの経緯を分析したものといえる。一方、ブロイラーについては、数多くの産地の興隆が見られた。現時点での上位州の名前を上げれば、ベラクルス、ハリスコ、ドゥランゴ、ケレタロ、アグア

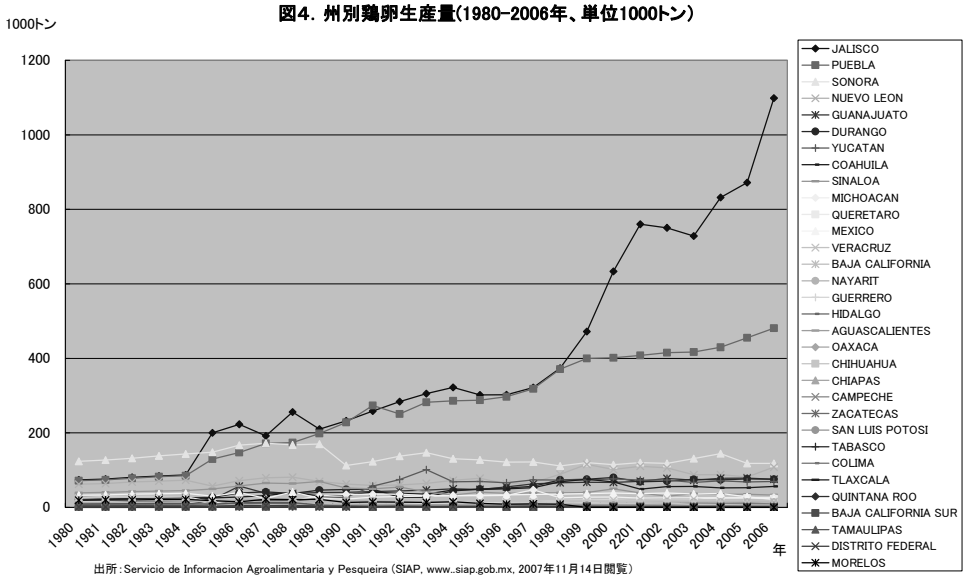
スカリエンテスとなる。産卵鶏もブロイラーも同じように飼料を需要することから、飼料調達条件によって産地の違いを説明できないことは確かである。鶏卵とブロイラーでなぜこのような違いが生じたかについては、今後の研究課題である。

図3. 州別ブロイラー生産量(1980-2006年、単位1000トン)



出所:Servicio de Informacion Agroalimentaria y Pesqueira (SIAP, www..siap.gob.mx, 2007年11月14日閲覧)

図4. 州別鶏卵生産量(1980-2006年、単位1000トン)



出所:Servicio de Informacion Agroalimentaria y Pesqueira (SIAP, www..siap.gob.mx, 2007年11月14日閲覧)

３．産業組織の特徴

(1)飼育規模と品種構成

ブロイラー、鶏卵産業は、育種、原種鶏(GP)の孵卵・飼育、種鶏（P）の孵卵・飼育、ブロイラーの孵卵・飼育の各部門、加えてブロイラーの場合に

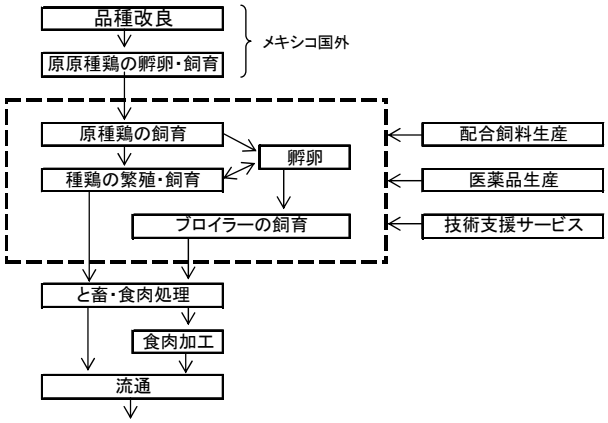
表2. 全国の鶏飼育羽数(2006年)

産卵鶏	
実用鶏	132,464,112
実用鶏雛(20日まで)	39,739,234
種鶏	942,250
種鶏雛(20日まで)	277,161
合計	173,422,757

ブロイラー	
実用鶏	248,060,826
種鶏	9,186,000
種鶏雛(20日まで)	6,429,000
原種鶏	175,579
原種鶏雛(20日まで)	114,850
合計	263,966,255

出所：UNA[2007:31]

図5. ブロイラー生産の流れ



はと畜解体処理部門、鶏卵の場合には選卵・パッキング部門、さらに配合飼料・医薬品・技術支援サービスなどの投入財生産部門、流通部門から構成される。このうちメキシコでは育種、鶏卵の GP の孵卵・飼育は行われておらず、ブロイラーの GP の孵卵・飼育以降、鶏卵の P の孵卵・飼育以降が行わ

れている。

図５にメキシコ国内のブロイラー生産の流れを図示した。このうち点線で囲った部分が狭義の養鶏業にあたる。このようにブロイラー産業は様々な部門から構成されるが、生産者には、この流れ全体、すなわち種鶏の有精卵・雛の輸入から狭義の養鶏業、配合飼料・医薬品の生産、技術支援サービス、と畜解体処理、包装、流通までを行うインテグレーターと、養鶏業の一部のみを行う養鶏農家がある。生産者の類型については後述する。

メキシコ国内で飼育されている品種の推移は表２に示すとおりである。品種とシェアの変化の特徴としては、次のような点を指摘することができる。第１に少数の品種への集中がみられることである。ブロイラーでは Ross

表3. ブロイラーと採卵鶏の品種とシェア(%)

品種	1989	2001	2002	2003	2005	2007
ブロイラー						
Ross Breeders	3	46	47	47	78	76
Cobb-Vantress	13	16	15	15	18	21
Hubbard-ISA	14	10	8	8	1	3
Hybro	10	25	27	27		
Isa-Vedette		3	3	3	3	
Arbor acres	36					
Shaver-Starbro	10					
Indian River	5					
Pilch	5					
Peterson	4					
採卵鶏						
Hy-Line	16	40	33	33	42	43
Bovans					13	36
Lohmann		1	7	7	7	11
Hy-Line Brown	1	1	1	1	1	5
Babcock-B380	4		2	2	2	3
ISA-Babcock-300	24	35	35	35	20	2
Deklab Gortie	37	10	10	10	9	
Hy-Sex Brown	6	5	5	5	4	
Hy-Sex Blanca	8	1	1	1	1	
Lohmann-Red			1	1	1	
Shaver	8	3	4	4		
Rode Island Red	3	1	1	1		

出所：Juarez [c.2004: 47] UNA[2001:27,28] [200243,44] [2003:43,44] [2005:33,34] [2007:32,33]

Breeders への集中が著しい。採卵鶏では Hy-Line と Bovans への集中がみられる。第２にブロイラーの場合、第１章に示したような北・中米、南米の品種のシェアと比較すると、Tyson 社の子会社である Cobb-Vantress の比重が低く、Aviagen 社のブランドである Ross Breeders の比重が高いことであ

る。ちなみにメキシコの Tyson 子会社は Cobb-Vantress を選択している。インテグレーションとの関係で、品種の選択に資本系列が影響していることが伺える。

(2) 規模別企業数と生産シェア

飼育規模別の企業数と生産シェアを表 4 に示した。この表から次の点が読み取れる。第 1 に大規模企業への生産の集中が著しく、それは特にブロイラーに顕著な点である。2006 年において上位 3 社に全国のブロイラー飼育総数の 55%が集中していた。第 2 に年を追うごとに集中の度合いが高まっていることである。ブロイラーでは小規模企業のシェア縮小が、卵鶏では中規模企業のシェア縮小が顕著であった。生産の集中がなぜ生じたか、またブロイラーと卵鶏で集中のメカニズムが異なるのかは、今後の検討課題となろう。

表4. 規模別企業数と生産シェア

	企業数			生産シェア		
ブロイラー	1996	2001	2006	1996	2001	2006
大規模(飼養規模1500万羽以上)	2	3	3	33%	52%	55%
中規模(同100万羽～1500万羽)	27	33	30	40%	34%	41%
小規模(同100万羽まで)	181	161	170	27%	14%	4%
卵鶏						
大規模(飼養規模300万羽以上)	6	9	10	29%	35%	44%
中規模(同50万羽～300万羽)	34	33	3	50%	36%	33%
小規模(同50万羽まで)	170	168	160	23%	29%	23%

出所:UNA[2007:37)

ここで生産者の飼育規模別の類型化と、後に述べるインテグレーションの程度・技術水準を基準とした類型化(表 10)の関係について述べておきたい。ふたつの類型は、インテグレーションが進み、高度な技術を用いる企業ほど飼育規模が大きいという意味で重なる部分があるが、厳密には基準を異にするために別個のものである。ただしブロイラーの大規模企業は、後述するように 1 位 Bachoco、2 位 Pilgrim's Pride、3 位 Tyson de México であることは明らかなので、表 8 の完全なインテグレーションの高度技術型と重なっている。

(3) TIF 認定と畜解体処理施設

ブロイラーのと畜解体処理施設には SAGARPA の施設・機械基準、衛生管理・検査基準である TIF(Tipo Inspección Federal)認定を受けた施設（以下 TIF と略）と受けていない施設が存在する。TIF であるか否かは、処理されたブロイラーの流通経路を大きく規定する要因となる。第 1 に、TIF は冷蔵施設を完備するために、TIF で処理されたブロイラーはコールド・チェーンを構築すれば長距離輸送が可能となり市場の幅が広がるため、第 2 に、品質管理に厳しいスーパーや食品産業に販路を広げる場合、TIF が要件となるためである。

1997 年時点で表 5 に示すように 8 州に 11 の TIF が存在した。それが 2004 年には 11 州に増加した。このうちの 5 州に全体のと畜羽数の 80%が集中し

表5. TIF認定鳥専門と畜解体処理施設の所在州と処理能力（1997年）

所在地（数）	処理能力(羽／シフト)
Jalisco (2)	52,000
Durango (2)	95,500
Aguascalientes (1)	25,000
Nuevo León (1)	30,000
Yucatán (1)	24,000
San Luis Potosí (1)	33,000
Sinaloa (1)	120,000
Sonora (2)	35,000
合計	414,500

出所 SAGAR[1998:18]

ており、内訳は Durango 州 21.6%、Jalisco 州 19.6%、Queretaro 州 13.2%、Hidalgo 州 12.4%、Sinaloa 州 11.9%であった（SAGARPA[2004:7]）。さらに 2007 年現在の全国の TIF 認定を受けたブロイラーのと畜解体処理施設を示したのが表 6 である。出所は表 5 と同じく SAGARPA であるが、ふたつの表に齟齬があることから、すべてが網羅されていない可能性もあるが、それでも表 6 にある施設だけで 13 州 19 施設となる。このように、過去 10 年間で TIF のと畜解体処理能力は急速な勢いで拡大した。

TIF 以外のと畜解体処理施設は正式には TSS（Tipo Inspección Secretaría

de Salud)、一般に公設と畜場（rastro　municipal）と呼ばれ、厚生省（Secretaría de Salud）の監督を受ける。規定上、設備は非常に簡素なもの

表6. TIF認定を受けたブロイラーのと畜食肉処理施設一覧(2007年7月現在)

所在地	企業名	操業開始年	と畜	カット	骨ぬき	処理	加工品製造[1]
Hermosillo, Son	Mezquital de Alimentos,S.A.de C.V.	5-Mar-65	○	○	○		○
Gómez Palacio, Dur	Provemex Avicola,S.A.de C.V.(Tyson de México)	31-Mar-75	○				○
Navojoa, Son.	Sonora Agropecuaria,S.A.de C.V.	02-Ago-75	○	○	○		○
Aguascalientes, Ags.	Interpec San Marcos,S.A.de C.V.	06－Ene-83	○		○		○
Uman, Yuc	Aviproductos Sanjor,S.A.de C.V.(2005年Bachoco買収	14-Sep-91	○	○	○		
Culiacan, Sin.	Bachoco,S.A.de C.V.	26-Oct-92	○		○		○
Lagos de Moreno, Jal	Bachoco,S.A.de C.V.	5-Sep-95	○			○	
San Luis Potosi, SLP	Pilgrim's Pride,S.A.de C.V.	4-Nov-96	○		○		
Villaflores, Chiap	Buenaventura Grupo Pecuarios,S.A.de C.V.	8-Oct-97	○		○		○
Tepatitlan, Jal.	Procesadora de Aves de Tepa,S.A.de C.V.	24-Oct-98	○			○	
Mérida, Yuc	Bachoco,S.A.de C.V.	25-Oct-98	○		○	○	○
Tepeji del Rio, Hid.	Pilgrim's Pride,S.A.de C.V.	18-Mar-99	○				○
Escobado, NL	Rastro,S.A.de C.V.	23-Ago-01	○				
Gómez Palacio, Dur	Provemex Avicola,S.A.de C.V.(Tyson de México)	12-Nov-01	○		○	○	
Municipio del Marques, Qro.	Pilgrim's Pride,S.A.de C.V.	31-Jul-01	○			○	
Tecamachalco, Pue	Bachoco,S.A.de C.V.	20-Mar-03	○	○			○
Santiago Miahuatlan, Pue	Productos Agropecuarios de Tehuacan,S.A.de C.V.	27-Oct-04	○	○		○	
Celaya, Gua	Bachoco,S.A.de C.V.	9-Ago-04	○	○			○
Tepic, Nay	Productora Pecuaria Alpera,S.A.de C.V.	19-Abr-06	○				
La Esperanza Colón, Que	Pollo de Queretaro,S.A.de C.V.	3-Mar-06	○	○	○		

出所：Directorio de Establecimientos TIF (www.senasicaw.senasica.sagarpa.go.mx/portal/html/inocuidad_agroalimentalia/sistema_tipo_inspeccion_federal/directorio_TIF_070706.pdf、2007年12月17日閲覧)

注：1. 加工品にはハム、ソーセージ、マリネ、薫製などが含まれる。

表7. と畜施設のタイプ別鶏のと畜数(100万羽)

年	TIF	TIF以外	TIF(%)	TIF以外(%)
1990	43	−	−	−
1991	52	−	−	−
1992	61	−	−	−
1993	104	−	−	−
1994	111	−	−	−
1995	112	679	14	86
1996	137	556	20	80
1997	189	616	23	77
1998	209	744	22	78
1999	301	728	29	71
2000	338	748	31	69
2001	402	731	35	65
2002	467	715	40	60
2003	475	789	38	62

出所：SAGAR[1998:45], SAGARPA[2004:7]

でもいいが、中にはTIF認定こそ受けないものの、TIFと同程度の高技術水準のと畜処理施設が存在する。TIF認定を受けない理由のひとつとして、認定および認定後の検査費用の節約があげられる。表7にTIFとTIF以外とに分けてと畜羽数の推移を示した。TIF施設数の急増を反映し、1997年以降TIFのと畜羽数が2倍以上に増加していることが明らかとなる。ここから

TIF のと畜能力が、新たに操業した施設ほど大規模化していることが伺える。ただし表から未だにTIF以外のと畜処理施設が全と畜羽数の6割強を占めていることも明らかとなる。今後もTIFの比重が拡大すると見込まれるが、そのペースは市場の動向によると考えられる。

(4) 市場の特徴

ブロイラー生産企業が出荷するブロイラーの商品形態には次の5つがある。第1にと畜解体処理工程を経ずに生きたまま出荷される生体(pollo vivo)である。第2に足、頭、内臓つきの丸ごとのと体で販売される公設市場仕様(pollo tipo mercado público)である。この場合、商標、生産者名をつけずに販売される。第3に公設市場仕様から頭、首、足を除いたスーパーマーケット仕様(pollo tipo supermercado)で、一部の内臓が付いた場合もある。商標、生産者名つきで販売される場合が多い。第4にスーパーマーケット仕様から内臓を除いた、ローストチキン仕様(pollo rosticero)である。スーパーマーケット仕様より飼育期間が短い。第5にと体を切り分けた解体品（piezas）である。近年大都市のスーパーマーケットで販売されるようになり、主として大規模インテグレーターから直接に出荷されるものである。最後に解体品を加工し高付加価値をつけたナゲット、ハンバーガー、マリネなどの加工品（preparados）がある（SAGAR[1998:24]）。注意せねばならないのは、5つの名称は出荷される際の商品仕様であり、必ずしも出荷先を意味しないという点である。スーパーマーケット仕様であるからといって必ずスーパーマーケットで販売されるわけではない。ブロイラーの流通には集荷業者、卸売業者、仲卸業者が関わり、流通経路は複雑でSAGARPAもUNAも把握していないという。ただし少なくともいえることは、公設市場仕様はスーパーマーケットでは販売されないという点である。逆にスーパーマーケット仕様が公設市場で販売されている。

表 8 に 1994 年から 2006 年までの商品仕様別出荷構成を示した。この間の変化として次の点を指摘できる。第 1 に生体のシェアが 1994 年の 49%から 2006 年の 27%へと急減したことである。その要因としては、第 1 に疫病キャンペーンの影響により、流通システムの近代化が進み生体での移動が制限されるようになったこと、第 2 に生体出荷が一般的であった地域へ M&A によりインテグレーターが進出し、と畜処理施設の稼働率を高めるために生体から肉へ出荷形態を転換させたことなどが指摘されている（SAGAR[2000: 9-10]）。第 2 に公設市場も 1994 年の 34%から 2006 年の 24%へとシェアを減少させている。第 3 に、ローストチキン仕様はシェアを増加させた。第 4 に、解体品と加工品のシェアは着実にシェアを伸ばしている。この二つはいずれも主にスーパーマーケットで販売される。

表8. 商品仕様別出荷構成の推移（%）

商品仕様	1994	1996	2000	2002	2005	2006
生体	49	42	31	29	28	27
公設市場	34	18	28	27	25	24
ローストチキン	10	27	26	25	26	26
スーパー	5	9	5	5	7	7
解体品	2	4	9	10	10	10
加工品	0	0	2	4	4	6

出所：UNA[1996:26] [2002:56] [2007:44]

個別企業のレベルでの出荷形態がどのようなものであるのか、メキシコ最大のブロイラー生産企業である Bachoco の事例について示したのが表 9 である。同社の場合、すべての商品仕様で出荷している。生体の場合は、卸売業者へ出荷される場合と南西地域でみられるように伝統的な販売ルート(sistema de rutas)を通じて販売される場合がある。将来的には縮小すると考えられているが、現在出荷量の 4 分の 1 をも占めている。ローストチキン仕様の場合は、ローストチキン・チェーン店、焼き肉レストラン、スーパーマーケットへ直接出荷している。公設市場仕様の場合は卸売業者へ出荷される。Bachoco はメキシコ最大の公設市場への供給者である。スーパーマーケット

仕様の場合は、スーパーマーケット、一部ブロイラー専門店へ出荷される。スーパーマーケットの場合、商標と頻繁な配送が重要な販売戦略となる。解体品は、スーパーマーケット、食品産業、ファーストフード・チェーンへ、トレイ包装、あるいはバラで出荷される。食品産業、ファーストフード・チェーンの場合は、カットの仕様が細かく指定されることが一般的である。高付加価値品としてはナゲット、マリネ、フライなどがあり、自社でそれらの商品に加工して販売している。近年最も販売の伸びが著しい部門である。

表9. Bachocoの商品仕様別出荷構成

	2001		2002		2003		2004		2005	
	1000トン	%	1000トン	%	1000トン	%	1000トン	%	1000トン	%
公設市場・ローストチキン	339	51	307	46	288	44	319	44	350	45
スーパー・解体品他	151	23	192	29	195	30	220	30	219	28
生体	172	26	167	25	173	26	194	27	204	27
合計	662	100	65	100	656	100	733	100	773	100

出所：Industrias Bachoco[2007:23]

(5) 防疫体制

生産地が疫病発生地域か否かは、養鶏業の競争力を規定する重要な要因となる。その理由は、第１に汚染地域から非汚染地域への生体、鶏肉、鶏卵の移動が禁止されていることから、汚染地域の生産者は市場の選択の幅を狭められること、第２に非汚染地域の生産者は医薬品への出費を節約できるうえ鶏の死亡率も低いために、生産コストが低いこと、などの理由による。メキシコで養鶏に対し本格的な防疫体制がしかれるようになったのは、1994 年に鳥インフルエンザが発生して以降である。疫病の発生状況に応じた防疫措置と生体、ブロイラー、鶏卵の移動の監視体制を定めたメキシコ公式規格(Norma Oficial Mexicana)が定められ、それに基づき根絶対策が実施されてきた(SAGAR[1998:11])。現在、鳥サルモネラ、ニューキャッスル病、鳥インフルエンザの３つが SAGARPA の撲滅キャンペーンの対象となっている。キャンペーンでは、全国が州ごとに疫病の発生の程度によって低頻度の発生(escasa prevalencia)、コントロール(control)、根絶(erradicación)、フリー

(libre)の 4 段階に区分され、段階に合わせて根絶・監視体制がしかれている。2007 年 11 月 22 日現在、3 つの疫病について「低頻度の発生」に指定された州は存在しない。根絶の宣言が出されているのは、鳥サルモネラではメキシコ市と 3 州（México, Michoacan, Morelos）、ニューキャッスル病ではメキシコ市と 4 州（México, Michoacan, Morelos, Oaxaca）、鳥インフルエンザではメキシコ市と 15 州（Aguascalientes, Guanajuato, Guerrero, Hidalgo, Jalisco, México, Michoacan, Morelos, Oaxaca, Puebla, Querétaro, San Luis Potosí, Tlaxcala, Veracruz, Zacatecas）である。それぞれの疫病について、以上に上げた州以外はいずれもフリーの宣言が出されている（www.senasicaw.sagarpa.gob.mx 2007 年 12 月 13 日閲覧）。

４．インテグレーションの進展状況

(1)ブロイラー飼育業者の類型

SAGARPA はブロイラー飼育業者を高度技術型(Tecnificado)、中位技術型(Semitecnificado), 裏庭型(Traspatio)の 3 つの類型に分類している。分類の基準は最新技術の導入の程度である。高度技術型は最新技術を導入しているのに対し、中位技術型の場合、最新技術の導入が部分的である。一部はインテグレーターとアパルセリア（aparcería）と呼ばれる生産委託契約を結んでいる。裏庭型は伝統的技術を用いてブロイラーを飼育する農家である。1998 年時点で高度技術型の生産シェアは 70% であった（SAGARPA[1998:15]）。

Hernández Moreno によれば、高度技術型は関連部門の内部化、すなわちインテグレーションの程度により、さらに、全面的と部分的の二つに分類できる。全面的にインテグレーションを進めた高度技術型、いわゆるインテグレーターの場合、原種鶏（GP）の飼育、種鶏（P）の孵卵・飼育、ブロイラ

ーの孵卵・飼育、と畜解体処理、食肉加工、投入財（配合飼料・医薬品）の生産､販売までを自らが一貫して行う｡部分的インテグレーションの場合は、ブロイラーの飼育に加えて自給用の配合飼料生産を行う。それぞれの特徴を表 10 に示した。

表10. ブロイラー飼育業者の類型

	高度技術型		中位技術型	裏庭型
インテグレーションの程度	全面的	部分的	なし	なし
原種鶏	○	×	×	×
種鶏	○	×	×	×
実用鶏	○	○（有精卵を購入）	○（雛を購入）	○雛は自家繁殖、公共機関の貧困農村支援プログラムで入手、または民間孵卵場の品質検査からはじかれた雛を購入
と畜・食肉処理	○（多くがTIF認定、一部が食肉加工へも進出）	×	×	×
配合飼料	○（配合飼料用の蛋白質・ビタミン・コンセントレートも生産。販売も行う）	○（個別、または他の生産者と協力して配合飼料を生産）	×	×
医薬品	○（民間研究所と提携してワクチン、医薬品も生産）	×	×	×
販売網	○（ローストチキン・チェーン、レストランを保有する場合もある）	×	×	×
多角化	豚、牛部門へ進出している場合もある。	×	×	
生産シェア	70%		20%	10%（自家消費の余剰分を販売）
主要所在州	ハリスコ、グアナフアト、ケレタロ、ヌエボ・レオン、プエブラ、ユカタン、ベラクルス、メキシコ、コアウィラとドウランゴの一部		全国に分布するが、特にチワワ、タマウリパス、ミチョアカン、チアパス、イダルゴ、モレロスに多い。	全国に分布
備考	一部は研究所、技術サービス部門をもつ。		一部は高度技術型の契約委託生産者となる。鶏舎と労働力を提供、雛と配合飼料、医薬品、技術資料を供給される。	

出所：SAGARPA[1998:14-16], Hernandez Moreno[2001:126]より筆者作成。

(2)主要なインテグレーター

表 11 はブロイラー雛およびブロイラーの主要生産企業の一覧を、生産羽数の多い順に示したものである。第 1 位の Bachoco が生産羽数でずば抜けて規模が大きい。同社のメキシコのブロイラー全生産量に占めるシェアは 2005 年に 29.9%であった（Industrias Bachoco[2007:7]）。第 2 位の Pilgrim's Pride と Tyson de Mexico も、Bachoco には及ばないものの他から抜きんでて大規模である｡両者はいずれも､同名の米国企業のメキシコ子会社である。

Pilgrim's Pride の場合は 1988 年にメキシコ進出、Tyson の場合は 1991 年に合弁事業への出資で進出、1994 年に過半数株式を、2001 年に全株式を取得している。ブロイラー生産羽数で換算すると、３社合計のシェアはおよそ 52%となる。表の下位にはブロイラー雛のみ、あるいはブロイラーのみに数字が記載されている企業がある。これらはインテグレーションを行わず、それぞれに特化した企業であると考えられる。ブロイラー雛とブロイラーを共に生産する 10 社の生産量合計のシェアはおよそ 71%となる。つまり、高度技術型とは具体的にこれら 10 社を指すと考えられる。

表11. 主要ブロイラー・ブロイラー雛生産企業(2007年)

企業名	本拠地	ブロイラー雛生産羽数(100万羽)	ブロイラー生産羽数(100万羽)	品種
Industrias Bachoco	Celaya, Guan.	414	404	Hybro/Ross/Hubbard
Pilgrim's Pride	Querétaro, Que.	174	157	Ross/Cobb
Tyson de México	Gómez Palacio, Dur.	146	146	Cobb
Avicarnes	Monterrey, N.L	68	68	Ross
Grupo Pecuario San Antonio	Córdoba, Ver.	45	45	Ross
PATSA	Tehuacán, Pue.	40	40	Ross/Hubbard
Avigrupo	Temixco, Mor.	35	35	Ross
Gigantes Tepa	Tepatitlán, Jal.	21	21	Cobb
Agroindustrias Quesada	Aguascalientes, Ags.	18	24	Ross
Reproductoras Avícolas	Epazoyucan, Hid.	16	16	Ross
Pollo Industrializado de México	Mérida, Yuc.	18		ISA
Avícola El Dorado	Hermosillo, Son.	8		n.a.
Bellabista	Cpordoba, Ver.	7		Cobb
Incubadora Cora	Tepic, Nay.	7		Cobb
Pollitos Villa Flores	Villa Flores, Chia.		45	Cobb
Alimentos Libra	Monterrey, N.L		20	Hubbard
Interpec San Marcos	Aguascalientes, Ags.		21	Ross
Chick Pollo	Guadalajara, Jal.		18	Cobb

出所:*Industria Avicola*, Enero 2007, pp.21-30.

表12. 主要生産者のインテグレーション

企業名	原種鶏	種鶏	ブロイラー	と畜・食肉処理	食肉加工	配合飼料	流通
Industrias Bachoco	●	●	●	●	●	●	●
Pilgrim's Pride	n.a.	●	●	●	●	●	●
Tyson de Mexico	●	●	●	●	●	●	●
Avigrupo	n.a.	●	●	●	―	●	―
Interpec San Marcos	n.a.	―	●	●	―	●	●
Gigantes Tepa	n.a.	●	●	●	n.a.	n.a.	n.a.
Agroindustrias Quesada	n.a.	●	●	●	―	●	―

出所:表5、表11および企業のホームページ情報などから筆者作成。
注:n.a.は不明。ーは事業に含まれていない。

表 12 は様々な資料に基づき主要企業のインテグレーションの進展状況を示したものである。上位 3 社とその他の企業との差は、上位 3 社が食肉加工と流通までインテグレーションを進めている点である。食肉加工とは具体的には加工食品ならびに細かな仕様に基づきカットされた解体品、流通とは市場に近い場所への流通センターや事務所・倉庫の設置である。流通センターの数は、Bachoco が 60 カ所， Pilgrim's Pride が 28 カ所、Tyson de Mexico が 7 カ所である。シェアの高低と流通網の広狭が関連していることが推定できる。

章末に主要企業の概容を補足資料として示した。記載された情報から主要企業の成長が 1990 年代以降のことであるが明らかとなる。成長の手段は主に既存企業の買収であった。ただしメキシコのブロイラー生産量の 90 年代以降の増加のペース、それを主導したのが 3 社であることを考えると、新規投資、あるいは大規模な追加投資も行われたと考えられる。

米国やブラジルで広く普及しているインテグレーターによる養鶏の委託契約（アパルセリア、aparcerpía）については、公開資料からは正確には把握できない。Bachoco については養鶏場含む大半の施設を所有するが、一部の農場を貸して生産委託契約を結んでいるとの記述が年報に記載されている。ただし詳細は不明である(Industrias Bachoco[2007,11])。SAGARPA によれば中位技術型の一部がインテグレーターとアパルセリア契約を結ぶが（表 10 参照）、SAGARPA がそう指摘すること自体、アパルセリア契約が一般的ではないことを示すと考えられる。

まとめ

以下においては、1980 年代後半以降のメキシコ養鶏業の概況と養鶏インテグレーションの進展との関連について本章の叙述を整理し、そこから今後の

研究の焦点と分析視角を探ることを試みたい。

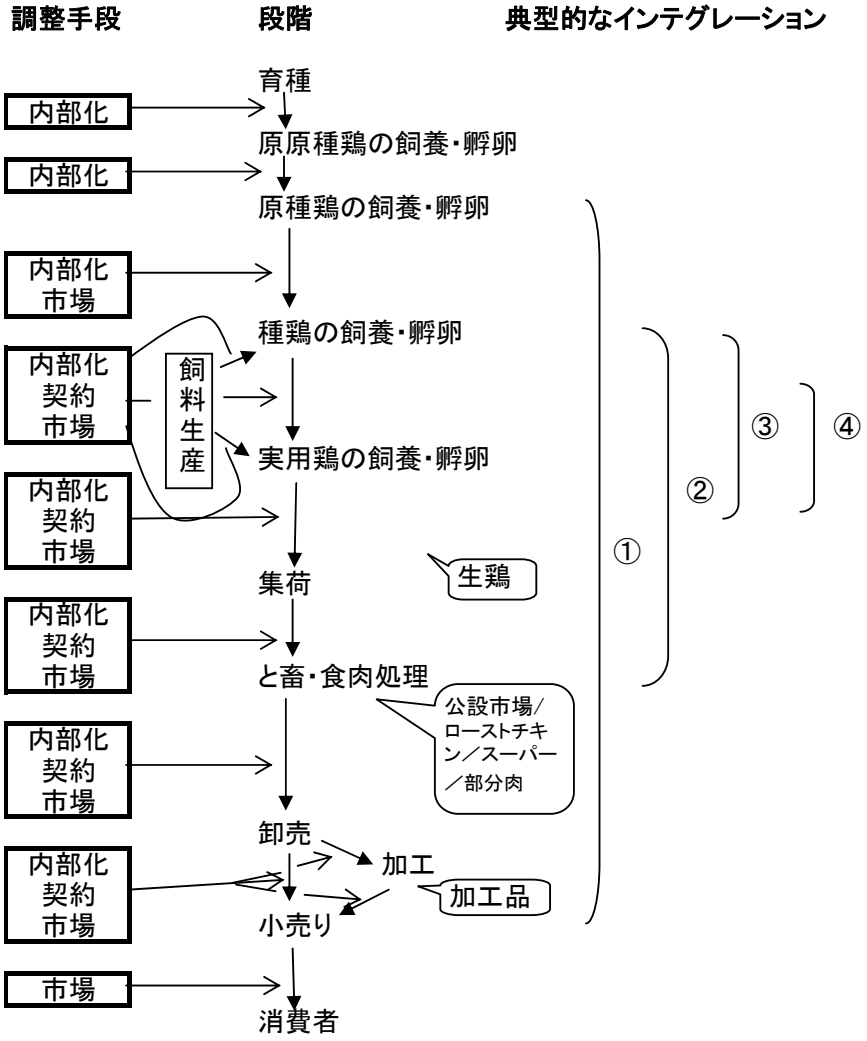
1980 年代後半以降のメキシコ養鶏業の概況を整理すれば、次のとおりとなろう。1980 年代後半以降、メキシコのブロイラー生産は急増した。その背景としては市場条件の変化（食肉消費の豚・牛からブロイラーへの転換－図１－、消費者の嗜好の変化）が先行研究において指摘されている。一方、供給側の要因として、市場の拡大に生産者が積極的に対応したことが指摘できる。そのことは、例えばブロイラーの産地として一部の州の急成長(図３,図４)、TIF 認定と畜解体処理施設の増加（表６，表７)、ブロイラーの出荷形態の多様化（表８)、防疫体制の整備などの点から伺える。一方、生産者の対応のうち最も重要なものが、インテグレーションの推進であったと考えられる。そのことは生産拡大の重要な主体が３大インテグレーターであり、そこへの生産の集中が急速に進んでいること（図１，表４)、３大インテグレーターは TIF と畜解体処理施設の開設でも重要な役割を果たしていること（表６）などの点から伺える。インテグレーターの生産拡大過程については、ほとんど研究されていない。３大インテグレーターが積極的に M&A を行ってきたことはよく知られているが、３大インテグレーターの M&A のみでメキシコ全体のブロイラー生産量の急増を説明することは難しい。３大インテグレーター、あるいはそれ以外のインテグレーターによって新規投資、あるいは大規模な追加投資が行われたと考えられる。インテグレーターの生産拡大過程は今後の検討課題である。

インテグレーターの生産拡大過程を検討するにあたり、４つのライフサイクルから養豚業の産業再編の進展の速度を説明する Boehlje and Schrader(1998)の議論が参考になる。彼らは産業再編が「機会の窓(window of opportunity)」と経済的な圧力・誘因が存在する際により速く進み、養豚業においては４つのサイクルが一致したときに産業再編が加速すると述べる。養豚業を養鶏業に置き換えても通じる議論である。４つのうちの第１は製品

のライフサイクルで、コモディティーから選別・加工された素材へという、豚肉に対する消費者の嗜好の変化をさす。メキシコのブロイラー消費についても、生体・公設市場仕様からスーパー・解体品・加工品仕様へと、同様の変化が生じていることは表 8, 表 9 に示したとおりである。第 2 は投資/償却のライフサイクル、第 3 は生産者・経営者のライフサイクル、第 4 は技術のライフサイクルである。4 つのライフサイクルという視点から過去 20 年間の 3 大インテグレーター、あるいはそれ以外のインテグレーターの生産拡大の契機を捉えることで、インテグレーションの進展の具体的なメカニズムが明らかになると考えられる。

次に本章の叙述から明らかになったメキシコの養鶏インテグレーションの基本的な特徴を、図 6 を参照しながら述べたい。図 6 はメキシコの実態を想定して、ブロイラー生産の段階、段階の間の調整の方法としてどのようなものがあるのか、また、どのようなインテグレーションのパターンが存在するのかを、Boehlje and Schrader(1998)を参考にして試論的に図示したものである。調整手段のうち「内部化」は所有に基づく調整を、「市場」は 1 回限りのスポット取引を、「契約」は交渉に基づく長期取引を想定している。Peterson, Wyscoki and Harsh はより細分化した 5 つの調整手段を示したが、メキシコの事例について 5 種に分類できるほど詳細な情報を得ていないために、より大きなくくりに分類した。典型的なインテグレーションのうち、①は 3 大インテグレーターを、②は表 12 の、食品加工を行っていない 3 大インテグレーター以外のインテグレーターを、④は表 10 の部分的インテグレーターを示している。具体例としては把握していないが、種鶏とブロイラーの飼育・孵卵のみを行うインテグレーターも存在し得ると考え③とした。

図6. メキシコのブロイラー生産の段階と調整手段、典型的なインテグレーション



出所：Boehlje and Schrader [1998: 12] を参考に筆者作成。

メキシコの養鶏インテグレーションの特徴は、段階間の調整の方法において内部化、すなわち所有に基づく調整が支配的であることである。特に、飼料生産、ブロイラーの飼育を内部化している点が特徴である。飼料生産には規模の経済が働くため、個々のインテグレーターが内製するより、まとまって大規模生産を行った方が生産コストは低くなると考えられる。それにもか

かわらず内製する理由は何か。一方、米国、ブラジルにおいてはブロイラーの飼育は生産委託が一般的である（Knoeber[1989]、植木[2007]）。なぜメキシコでは生産委託があまり行われないのか。考えられる理由としては、飼料については、穀物流通への政府の介入が内製化に有利に働いた可能性、飼料の内製が企業間競争の手段の一つとなっている可能性､生産委託については、インテグレーターの出自の違い（米国、ブラジルはと畜解体食肉加工業者、メキシコは養鶏業者)､生産委託の履行を阻む条件の存在（生体市場の存在など）などがあげられる。作業仮説として今後の検討課題としたい。

図６は３大インテグレーター（①）がその他の生産者（②、③，④）に対しどのような優位を有するかも示している。図から明らかなように、③④の部分的インテグレーターは生体しか出荷できない。②のインテグレーターはTIF のと畜処理施設を所有しないならばスーパー向けの解体品・加工品を出荷できない。これに対し３大インテグレーターはすべての商品仕様で出荷が可能である。市場が多様化する現状、特にスーパーでの販売の拡大傾向を考えれば、多様な商品仕様で出荷が可能な３大インテグレーターは商品仕様が限定された②、③、④に対し優位にあるといえる。これに対する②、③、④の対応としては、インテグレーションをと畜解体処理へと進めることが考えられる。ただし 1990 年代以降開設された 16 の TIF と畜解体処理施設のうち、後に買収されたものも含めれば 10 施設は３大インテグレーターによるものであった（表６）。このことから３大インテグレーター以外にとってのと畜解体処理への進出のハードルの高さがうかがえる。ハードルとしては、投資資金の調達、新たな販路開拓の必要などが考えられる。作業仮説として今後の検討課題としたい。

メキシコの養鶏インテグレーションの特徴として指摘できるもう一つの点は、３大インテグレーターのうち民族系の Bachoco が、二つの米系インテグレーターに対し生産シェアで圧倒的優位に立つことである。ちなみに資本力

では米系２社が圧倒的優位に立つ。Bachoco の優位は何に依っているのか。この点を明らかにすることは、養鶏業の発展の主体として民族系企業の可能性を考える上で重要である。優位の要因として考えられるものに、メキシコのブロイラーの市場構造と Bachoco の企業戦略が上げられる。生体出荷の比重が大きいこと、流通経路として公設市場が重要性を持つことは、米系２社の母国では見られないメキシコ市場の特徴である。民族系企業は豊富な経験や情報によって、市場に対応した企業戦略の立案や流通ネットワークの構築という点で外資系企業に対し優位に立つのではないか。この点も作業仮説として今後検討していきたい。

補足資料１．主要インテグレーターの概容

①　Industrias Bachoco, S.A.de C.V.　(Bachoco、www.bachoco.com.mx)

[本社所在地]　Guanajuato 州 Celaya

[沿革]

1952 年　ソノラ州で Robison Bours 一族により小規模な鶏卵事業として設立。買収により事業拡大

1974 年　主要な市場であるメキシコ市に近い Celaya に拠点を移動

1988 年　鶏卵からブロイラーへ事業の比重をシフトする

1993-1994 年　プエブラ州とハリスコ州で事業買収。買収後に施設の近代化を進める

1997 年　ニューヨークと国内で株式上場。17.25%を公開。引き続き企業買収により成長

1999 年　Grupo Campi を買収して販売用配合飼料生産に参入

補足表1．Bachocoによる企業買収

買収年	企業名	所在地(州)	事業	生産規模
1999	Grupo Campi		配合飼料	7500トン／週
2001	Avicola Nochistongo	Laguna	鶏卵	300万羽(鶏卵)
2001	Avicola Simon Bolivar	Laguna	鶏卵、ブロイラー飼	200万羽(鶏卵)＋12万羽(ブロイラー)
2005	Grupo Sanjor	Yucatan	雛の生産、鶏卵	30万羽／週＋10万羽(鶏卵)
2003	Del Mezquital	Sonora		

出所：Bachoco[2005][2006]

［事業の概要］

2005 年の売上総額に占める各産品のシェアはブロイラー80.1%、鶏卵 7.2%、豚肉 1.0%、配合飼料 7.2%。同年にブロイラー生産では 30.9%の市場シェア。生産コンプレックスを全国７カ所、**流通センターを全国 60 箇所に開設。**

補足表2. 産品別生産量(単位:1000トン)

	ブロイラー	鶏卵	豚肉	配合飼料
2001	662	86	9	346
2002	665	132	9	325
2003	655	132	9	316
2004	733	138	9	321
2005	773	141	10	390
2006	774	143	9	484

出所:補足表1に同じ。

補足表3. 生産コンプレックスの所在地

地名	州名	概容
Celaya	Guanajuato	鶏肉、卵、豚肉
Culiacan	Sinaloa	鶏肉、卵、豚肉
Tamachalco	Puebla	鶏肉、卵、配合飼料
Lagos de Moreno	Jalisco	鶏肉
Coatzacoalcos	Veracruz	鶏肉、卵、配合飼料
Merica (3プラント)	Yucatan	鶏肉、卵、配合飼料
Gomez Palacio	Durango	鶏肉、卵

出所:補足表1に同じ。

補足表4. 所有する生産施設 (2006年)

生産施設名	数
親鶏飼育農場	159
ブロイラー飼育農場	479
と畜解体処理施設	9
孵卵施設	21
採卵鶏農場	100
親豚飼育農場	1
肉豚飼育農場	12
配合飼料生産施設	17
食品加工プラント	4

出所:補足表1に同じ。

② Pilgrim's Pride, S.A.de C.V. (www.pilgrimspride.com.mx)

[本社所在地] Querétaro 州 Querétaro

[沿革]

1964 年 米国の Purina が San José de la Penuela で地元生産者と共同で Toliman 農場を開設、65 年に生産開始。同じ時期に Tequisquiapan

にも農場開設

1968 年　Tequisquiapan に繁殖農場を開設

1988 年　Pilgrim Pride のメキシコ進出。Purina の資産を買収

1995 年　Pilgrim Pride が 3500 万ドルで Grupo Avicultores de Querétaro から３つの繁殖農場、 孵卵施設、配合飼料生産施設、と畜解体処理施設を買収

[事業の概要]

米国の Pilgrim's Pride の 100%子会社。配合飼料生産施設６、孵卵施設６、ブロイラーと畜解体処理施設３を保有。流通センターを全国 28 カ所に設置。

補足表5. Pilgrim's Prideのと畜解体処理施設

所在地	TIF番号　生産能力
Hidalgo州Tepeji del Rio	TIF A-239 105万羽／週
Queretaro州Los Cués	TIF A-282 153万羽／週
San Luis Potosí州San Luis Potosí	TIF A-206 44万4000羽／週

出所：www.pilgrimspride.com.mx 2007年12月11日閲覧。

③　Tyson de México, S.A.de C.V. (www.tyson.com.mx)

[本社所在地]　Durango 州 Gómez Palacio

[沿革]

1953 年　Comarca Lagunera で Manuel R. Villegas Torres が El Trasgo 農場の名前で飼育規模 3 万羽の養鶏場を開設

1973 年　Durango 州 Mapimi で養鶏コンプレックスを展開

1974 年　近代的なと畜解体処理施設を開設。それにより事業展開の方向性がブロイラー飼育事業へと定まる

1987 年　国内消費用、輸出用に、製品仕様の多様化が始まる

1991 年　Tyson Foods Inc.とジョイントベンチャー協定締結

1994 年　Tayson Foods が過半数株式を取得

1997 年　名称を Trasgo から Tyson de México に変更

2001年　Tyson Foodsが Tyson de Méxicoの株式を100%取得
調理済み食品の製造プラントが操業開始

[事業の概要]

ブロイラーの週当たりの生産能力は260万羽。ブロイラーの飼育、と畜解体処理、配合飼料生産、流通、販売まで手がける完全インテグレーション企業。従業員薬500人。間接に協力する生産者が1700人。流通センターを、本社を含め国内7カ所（Chihuhahua, Chi., Monterrey, N.L, Zacatécas, Zac., Ciudad de México, Guadalajara, Jal., Durango, Dgo.）に開設。

④　Avigrupo, S.A.de C.V. (www.avigrupo.com)

[本社所在地]　メキシコ市

[沿革]

1969年　まぐさと配合飼料の販売企業としてForrajes Ermitaがメキシコ市の Iztapalapa　に創設

1971年　Atizapan de Zaragozaに移転

1972年　養鶏危機で経営の悪化した養鶏企業を吸収、養鶏業に進出

1974年　Cia. Incubadora de Temixcoが孵卵事業を開始、雛の供給に参入。ブロイラーの販売に参入

1977年　Cia. Incubadora de Temixcoが Morelos州に有精卵生産のための養鶏場を数カ所に建設

1979年　Xalostoc に Alimentos Industrialesを買収。自給用の配合飼料生産のため

1981年　Reproductora de Morelos設立。品質の高い種鶏生産のため

1982年　Rastro de Avesと事業提携。市場へのアクセス改善と商品開発のため 1983年　San Juan Teothihucanがブロイラーの飼育のために参加

1985 年　Avicola Fresco Pollo de Morales となる

1986 年　Villa del Carbon に所在する Agropecuaria de Reproducción Avícola が配合飼料の生産と販売を始める

1990 年　有精卵を生産し飼育農場に供給するために Miacatlan Morelos に新しい孵卵プラントの操業開始

1993 年　Avícola San Andres, Alimentos Tecamac, Desarrollo Avíicola de Sur が企業グループ Avigrupo に参加

1998 年　Chiconautla のと畜プラントを買収

1999 年　Alimentos Industriales, S.A.を買収

2003 年　Chalco がブロイラー飼育で参加。Nufortec がグループに参加。Impulsora Automotriz Lombanos が操業開始。グループ企業に参加。

2004 年　次の養鶏場を買収：Huitzila, Tezcoco, Tezontepec。Avigrupo 傘下の農場の自動化開始

[事業の概要]

ブロイラーの親鶏の飼育、有精卵の採取、孵卵、配合飼料生産、輸送

⑤　Interpec San Marcos, S.A.　(www.sabro.com.mx)

[本社所在地]　Aguascalientes 州　Aguascalientes

[沿革]

1963 年　動物用配合飼料生産のプラント操業開始

1968 年　鶏卵生産事業に参入

1981 年　ブロイラー生産事業に参入

[事業の概要]

ブロイラー、鶏卵、配合飼料の生産、販売。本社と食肉処理プラント（TIF 認定）は Aguascalientes 州 Aguascalientes に所在。販売オフィスが Guanajuato 州 León, Irapuato, Michoacán 州 Morelia, Querétaro 州

Querétaro に所在。ブロイラーのトレードマークは Sabropollo。

⑥Agroindustrias Quesada, S.de R.L. de C.V.
（www.nutrypollo.com.mx）

[本社所在地]　Aguascalientes 州　Aguascalientes

[事業の概要]

親鶏の飼育、有精卵の採取、孵卵、と畜解体処理、配合飼料生産、ブロイラーの飼育。製品は、部分肉、生鳥、ブロイラーの雛、ブロイラーの有精卵。

〔参考文献〕

＜日本語文献＞

星野妙子[2006]「メキシコの豚肉輸出―貿易自由化時代の生き残り戦略―」（星野妙子編『ラテンアメリカ新一次産品輸出経済論―構造と戦略―』研究叢書 No.562　アジア経済研究所）

植木靖[2007]「ブラジル養鶏産業の成長と地理的展開（星野妙子編『ラテンアメリカ新一次産品輸出経済論―構造と戦略―』研究叢書 No.562 アジア経済研究所）

＜外国語文献＞

Alonso Pesado, Francisco and Clara V. Loza Arizu [2004]. “El sector avícola productor de carne y algunas asimetrías con la avicultura productora de carne estadounidense,” in Beatriz A. Cavallotti Vázquez & Víctor H. Palacio Muñoz (coord.), *La ganadería: experiencias y reflexiones*, México: Universidad Autónoma Chapingo, pp.69-89.

Hernández Moreno, María del Carmen[1996], “La industria avícola en Sonora un gigante con pies de barro,” in cord. by Hubert C. De Grammont & Héctor Tejera Gauvet, *La sociedad rural mexicana frente al nuevo milenio*, *Vol.1. La nserción de la agricultura mexicana en la economía mundial,* México: UAM Azcapotzalco, el Instituto de Investigaciones Sociales de la UNAM, el INAH y la Editorial Plaza y Valdés S.A.de C.V. pp.321-344.

---------- [2001], *Crisis avícola en Sonora. El fin de un paradigma (1970-1999),* México: Plaza y Valdes.

Hernández Moreno, María del Carmen and Araceli Andablo Reyes

[c2006], “La industria avícola mexicana a más de una década de la aplicación de las políticas de ajuste y de la apertura comercial,“ José Luis Calva ed. *Desarrollo agropecuario, forestal y pesquero, agenda para el desarrollo* Vol.9, Cámara de Diputado, Miguel Angel Porrua and Universidad Nacional Autónoma de México.

Knoeber, Charles R [1989]. “A Real Game of Chicken: Contracts, Tournaments, and the Production of Broilers,” *Journal of Law, Economics and Organization*, Vol.5, No.2 (Autumn), pp.271-292.

Industrias Bachoco,S.A.de C.V.[2003]. *Reporte annual que se presenta de acuerdo con las disposiciones de carácter general aplicables a las emisoras de valores y a otros participantes del mercado. Correspondiente al año terminado el 31 de Diciembre del 2002.*

----------[2005]. *Reporte annual que se presenta de acuerdo con las disposiciones de caracter general aplicables a las emisoras de valores y a otros participantes del mercado. Correspondiente al ano terminado el 31 de Diciembre del 2005.*

----------[2007]. *Ultimo Informe Anual Reportado Para Bachoco, Fecha de Recepción en BMV viernes 29 junio 2007.*

Juárez Zarate, Angel et.al. “Producción de pollo para carne en México (1980-2002) Estudio descriptivo y análisis de la cadena productiva,” (mimeo) (www.c n og.com.mx/Estudios/Produccion , 2007 年 11 月 2 日閲覧)

Peterson, H. Christopher, Allen Wyscoki and Stephen B. Harsh [2001]. “Strategic Choice along the Vertical Coordination Continuum,” International Food and Agribusiness Management Review Vol.4,

pp.149-166

Real Cabello, Gaspar [1996] “Efectos del TLACAN en la avicultura queretana,” in Beatriz A. Cavallotti Vázquez & Víctor H. Palacio Muñoz (coord.), *La ganadería, experiencias y reflexiones*, México: Universidad Autónoma Chapingo, pp.91-110.

SAGAR（Secretaria de Agricultura, Ganaderia, Desarrollo Rural）[1998], *Situación actual y perspectiva de la producción de carne de pollo en México 1990-1997*, México:SAGAR.

----------[1999] *Situación actual y perspectiva de la producción de carne de puerco en México, 1999,* México: SAGAR.

---------- [2001] *Situación actual y perspectiva de la producción de carne de pollo en México, 2000,* México: SAGAR.

SAGARPA（Secretaria de Agricultura, Ganaderia, Dearrollo Rural, Pesca y Alimentación）[2003], *Situación actual y perspectiva de la producción de carne de pollo en México 2002*, México:SAGARPA.

----------[2004]. *Situación actual y perspectiva de la producción de huevo para plato en México 2004*, México: SAGARPA.

----------[2005]. *Situación actual y perspectiva de la producción de carne de pollo en México 2004*, México: SAGARPA.

---------- [2006] *Situación actual y perspectiva de la producción de carne de puerco en México, 2006,* México: SAGARPA.

UNA (Unión Nacional de Avicultores) [1994] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 1994*, México: UNA, octubre.

---------- [1996] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 1996*, México: UNA, abril.

---------- [1997] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola*

1996, México: UNA, abril.

---------- [1998a] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 1997*, México: UNA, abril.

---------- [1998b] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 1996*, México: UNA, octubre.

---------- [1999] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 1999*, México: UNA, noviembre.

---------- [2000] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 2000*, México: UNA, marzo.

---------- [2001] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 2000-2001*, México: UNA, abril.

---------- [2002] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 2001-2002*, México: UNA, abril

---------- [2003] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 2002-2003*, México: UNA.

---------- [2005] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 2005*, México: UNA,abril.

---------- [2007] *Compendio de indicadores económicos del sector avícola 2007*, México: UNA.